

様式第3号（第13条関係）

会議録

会議の名称	朝霞第五中学校 第1回学校運営協議会	
開催日時	令和8年5月26日（火） 午後3時30分から午後4時30分まで	
開催場所	朝霞第五中学校 2階図書室	
出席者の職・氏名	鈴木 律子（元朝霞五中保護者代表連絡会代表） 要害 映子（法務省人権擁護委員） 和田 雅子（宮戸町内会長） 片村 榮博（元朝霞第三小学校PTA会長） 古谷 敦（朝霞市障害者ふれあいセンターあさか福祉作業所長） 森泉 良一（埼玉県スクールソーシャルワーカー） 金子 康雄（朝霞第一中学校スクールサポーター） 松本 欣巳（朝霞第三小学校長） 鈴木 康之（朝霞第五中学校長）	
欠席者の職・氏名	なし	
議題	・会長、副会長選出 ・令和8年度学校経営方針について ・令和8年度年間行事等計画について ・「探究的な学びの実施」「部活動の地域移行」に向けて（協議）	
会議資料	別紙のとおり	
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 要点記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	<input type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法 会長による確認	
傍聴者の数	1名	
その他の必要事項		

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

- 1 開会（五中教頭）
- 2 挨拶（五中校長）
- 3 自己紹介
- 4 会長、副会長選出
事務局からの推薦案により選出。（鈴木律子会長、要害映子副会長）
- 5 令和8年度学校経営方針について
 - ・【学校教育目標、目指す生徒像】昨年度から変更なし。
 - ・【目指す学校像】県の指針と朝霞市の施策を反映し、「未来に向かって」という文言を追加。
 - ・【教育相談の充実】SSR（スペシャルサポートルーム）の整備、従来の「さわやか相談室」に加えて、居場所の多様化に対応する。
 - ・【その他】探究的な学びの授業改善、部活動の地域展開、教員の業務量管理・健康確保措置に関する基本方針（時間在校等時間の目標値と現状の確認）について提示。

委員：宮戸郵便局前の自転車登校について。大型車も通行するため、事故が心配である。第五中学校の生徒はルールを守っているが、事故のないように指導してほしい。

学校：新しい自転車登録申請を行った際に指導を施した。また、毎月1回昼休みに実施している自転車点検も定着している。今年度は新入生が2学級増え、自転車登校の生徒数自体が増加したこともあり、安全な登下校について今後も継続して指導を徹底していく。

委員：長期欠席者（不登校）はどのくらいいるのか。

学校：埼玉県の不登校率と比較して大きな乖離はない。休んでいる生徒に対しては、家庭訪問等で接点を持つことはできているものの、学校課題の一つとして捉えている。

委員：コロナ禍の時のように、リモート学習などの支援への取り組みは行っているか。

学校：リモート学習、さわやか相談室での登校指導、担任が学習課題を届けて取り組ませているケース等がある。また、民間のフリースクールに通っている生徒もおり、出欠席の取り扱いや指導要録の記載も含めて細心の注意を払って支援している。

学校経営方針について全員一致で承認。

- 6 令和8年度年間行事等計画について
資料に基づいて教頭が説明。
第3回学校運営協議会は、10月下旬の学校公開週間を設けるため、その期間中に自由に参観する形をとる。

- 7 協議
「探究的な学びの実施」「部活動の地域移行」に向けて各委員からの意見を学校と共有。

【主な意見の概要】

- 高齢化社会における世帯等では機械やA Iは非常に便利だが、子どもたちが情報をどう得るかが重要となる。また、生成A I等の提示する答えが本当に正しいのかどうかを「自ら考える力」が大切。家族の中で話し合える時間等があれば良いと感じる。
 - 技術や知識の答えはA Iやタブレットを見れば出てくるが、学校は教員と生徒が共に作り上げる場である。体育祭の共同作業などでコミュニケーションを取り、皆で苦労して答えを導き出す経験が必要。また、五中の体育祭は非常に立派であり、こうした学校の良さをもっと外部へP R・発信して欲しい。
 - ロボットや作業の自動化は便利だが、いじめの相談が学校を飛び越えて教育委員会へ直接いくケースもあり、人間的な繋がりや思いの希薄化を懸念している。五中の体育祭で、特別支援学級の新生入生に声をかけて仲間に入れていた姿があったと聞き、非常に素晴らしいと感じた。こうした人間的な関わりこそが大切である。
 - 映像資料は近未来的であったが、会話がないう点が気になった。現代の子どもたちは孤独や困り感を抱えており、耐えている不登校の子も多い。周囲に「助けて」と声を上げられる教育、仲間と一緒に生活していると実感できる教育が必要。ロボットの台頭で職業選択が難しくなるからこそ、どう生きていくかという指導を強めたい。
 - 探究的な学びにおいて、先生や保護者、生徒だけでなく、多くの地域住民が総力を結集して学校に関わっていることに驚き、感動した。
 - 五中の生徒は素直な子が多い。言われたことだけをやるのは機械と同じであるため、自ら考えて行動できるような人間に育ててほしい。どうアプローチするかは難しいが、一歩踏み出す「プラスα」の力が欲しい。
- 学校：新1年生が5学級となり、今後も生徒数は増加傾向と予想されるが、地域の方が「良い学校」と思ってくれていることに最大の価値がある。本日いただいた貴重なご意見はしっかりと記録にまとめ、今後の教育活動に活かしていく。